

心で話す

四年 小林礼乃

「どうしたら動物と話ができるの?」と、お父さんに聞くと、「動物とはテレパシーで話をするんだよ。じつと見ていると、何をしてほしいのか、表情やしぐさでわかるよ。」と教えてくれました。私には、そのテレパシーというものがどういうものか、よくわかりませんでした。

私の家には、犬が二ひき、ネコが二匹、小鳥と金魚が一匹ずついます。その子たちの様子をじつと見ていると、表情がよくわかるようになりました。

二匹の犬は、十五さいのボーダーコリーの「まりも」と、五か月の「もなか」です。「もなか」は、生まれて二か月の時に、お父さんと二人で車で名古屋へむかえに行きました。とても小さくて、フワフワの毛で、かわいい顔をしていました。私がつこすると、ペロペロと口のまわりをなめました。

でも、静岡へ帰る車の中では、「キャンキャン」とずっと鳴いていたので、お母さんとはなれて、さびしくて不安なのだろうなと思いました。だからその時、私は「もなか」をずっと大切にしようと決めました。

遊んでほしい時、おやつがほしい時、なでてほしい時。目がキラキラとかがやきます。耳のかたむきやしつぽの動き、声の高さからも、何を考えているのか、だんだんわかるようになりました。これが、お父さんが言っていたことなのかなと思います。

私は犬やネコに朝、夜とごはんをあげます。そして、毛をくしでといであげたり、ボールで遊んだりして、かわいがっています。そうすると、もつと気持ちいが伝わってくるように感じています。

動物は、私達のように言葉は使えないけれど体全部で気持ちをあらわすのだと思います。

だから、それをしっかりと見て、受けとることが、動物とお話することなのだと思うようになりました。

犬もネコも小鳥も金魚も大切な家族です。「動物の一年は人間の七年だから、すぐに年をとってしまう。」と本に書いてありました。

だから、毎日をみんなが楽しくくらししていけるようにしていきたいです。

これから、しっかりと見て、心でお話ができるようにしていきたいです。